

第3次広島市食育推進計画「取組を評価するための指標」の実績等

目 標		指 標	目標値	計画策定時 (H27年度)	中間評価時 (H29年度)	実績値※ (R2年度)	使用統計等	結果の概要	
総合評価	健全な食生活を実践する市民を増やす	健全な食生活を実践する市民の割合	80%以上	66.2%	64.8%	70.6%	▲	食育に関する調査(調査結果報告書P43-44) 性別・年齢別 就業状況別 世帯構成別 男性(66.2%)は女性(74.9%)より低い。 男女ともは15～19歳(男性75.0%、女性83.1%)は高いが、男性では、 20歳代 から50歳代(57.2～63.0%)が低い。女性は 20歳代 (64.4%)が最も低い。 勤労者 が最も低い(66.6%)。 一人暮らしが最も低い(49.0%)。	
主な施策展開		指 標	目標値	H27年度	H29年度	実績値(R2年度)	使用統計等	結果の概要	
和食の推進	栄養バランスに配慮した食生活の推進	「和食」を実践している人の割合	80%以上	69.6%	69.0%	67.1%	▼	食育に関する調査(調査結果報告書P30-31) 性別・年齢別 就業状況別 世帯構成別 男性(60.2%)が女性(73.4%)より約10ポイント低い。 男女とも 20歳代 が最も低く(男性5.18%、女性58.2%)年代が上がるにつれて高くなる傾向 中高生(61.9%)、 勤労者 (63.1%)が低い。 一人暮らし世帯が最も低い(42.8%)。	
		主食・主菜・副菜を組み合わせた朝食を食べている人の割合	70%以上	46.6%	43.3%	44.6%	▼	食育に関する調査(調査結果報告書P14-17) 性別・年齢別 就業状況別 世帯構成別 朝食の準備方法別 男性(36.9%)が女性(51.5%)より約15ポイント低い。 男女ともに 20歳代 が最も低い(男性16.9%、女性25.4%)。 大学生等 (24.6%)が最も低い。 一人暮らし世帯(39.6%)、18歳未満の子どもがいる世帯(39.8%)が低い。 「家で調理して食べる」(51.1%)と「主に調理された物を購入する」の乖離が大きい。 (スーパー等23.6%、コンビニ3.3%)	
	健康的な食べ方の実践に向けた取組の推進	よくかんで食べるなど食べ方に配慮する人の割合	80%以上	58.1%	68.3%	73.5%	▲	食育に関する調査(調査結果報告書P36-37) 性別・年齢別 就業状況別 世帯構成別 男性(68.0%)は女性(78.6%)より約10ポイント低い。 男女とも30～50歳代の働く世代の実施率が低い。 勤労者 (67.6%)が最も低い。 一人暮らし世帯(64.7%)が最も低い。	
輪食の推進	家族等で食卓を囲む機会を増やす取組の推進	「輪食」を実践している人の割合	80%以上	70.5%	64.5%	69.5%	▲	食育に関する調査(調査結果報告書P32-33) 性別・年齢別 就業状況別 世帯構成別 男性(64.6%)が女性(74.1%)より約10ポイント低い。 実践していない人 でみると男女とも 20歳代 が最も高い(男性43.7%、女性24.6%)。 勤労者 (68.9%)が最も低い。 一人暮らし世帯が最も低い(15.4%)。	
	食文化の伝承など「食」を契機とした地域振興・地域交流の促進	家庭で郷土料理を食べる児童・生徒の割合	50%以上	32.3%	—	53.4%	◎	児童・生徒に対する「食育に関するアンケート」 目標を達成した。	
	農林水産業や地産地消等の重要性を理解し実感する活動の促進	農林水産業の体験交流人口	106万人以上(H28年度)	70万人	75万人(H28年度)	71万人(H31年度)	▲	実績値等 農業・農村体験交流人口:678,464人、市民農園等利用者数:15,389人、森林公園で行う自然体験活動参加者:13,084人、水産体験交流事業参加者数:925人	
環食の推進	食品や食材の廃棄を減らす取組の推進	「環食」を実践している人の割合	80%以上	78.6%	76.1%	79.7%	▲	食育に関する調査(調査結果報告書P34-35) 性別・年齢別 就業状況別 世帯構成別 男性(75.8%)が女性(83.3%)より低い。 男性では30歳代(71.8%) 20歳代 (72.3%)で低く、女性では 20歳代 (77.3%)が最も低い。 家事従事者が最も高い(90.3%)。 一人暮らし世帯が最も低い(70.9%)。	
	広島食材を普及する取組の推進	「ひろしまそだち」を購入したことがある世帯の割合	70%以上(H28年度)	67.2%	62.4%(H28年度)	69.9%(H30年度)	▲	ひろしまそだちマーク認知度調査 平成31年3月9日に市内の小売店4店舗において、来場者約400人に対し、「“ひろしまそだち”マークのついた農林水産物をこの1年間に購入したことがありますか」と聞き取り調査を実施した結果、69.9%の来場者が「はい」と回答した。(H31年度は新型コロナウイルス感染症のため調査未実施)	
		学校給食における地場産物の使用割合	40%以上	36.5%	27.2%(H28年度)	25.7%(H31年度)	▼	学校給食栄養報告(栄養週報) 本指標は、国の「第3次食育推進基本計画」における算出方法を準用したものであり、本市の給食実施校から抽出した自校調理校2校の給食において毎年6月と11月の各1週間に使用した食材(加工品を含む。)に占める地場産物の割合である(令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため調査未実施)。	
性別・年代別等の取組の推進	男性への積極的な食育推進	健全な食生活を実践している男性の割合	80%以上	59.7%	62.5%	66.2%	▲	食育に関する調査(調査結果報告書P43-44) 策定時、中間評価時より実施率は上昇しているが、目標値は達成していない。 15～19歳(75.0%)は高いが、 20歳代 から50歳代(57.2～63.0%)が低く、60歳代(73.6%)で急増する。	
	若い世代に対する効果的な取組の推進	朝食を毎日食べることが習慣になっている人の割合	20歳代男性	85%以上	76.5%	75.9%	72.3%	▼	食育に関する調査(調査結果報告書P4-7) 朝食喫食率は全体では、85.7%。性別にみると、男性(82.9%)は女性(88.1%)より低い。 男女ともに15～19歳(男性84.2%、女性87.3%)は高いが、20歳代で約10ポイント下がる。 男性は 20歳代 (72.3%)が最も低く、年代が上がるにつれて高くなる傾向。女性は 20歳代 (77.3%)が最も低い。 大学生等 (79.3%)、 勤労者 (82.1%)が低い。
			30歳代男性	62.5%	73.0%	76.1%	▲		
	次代を担う子どもへの食育推進	小学生	100%	96.4%	96.5%	96.2%(H31年度)	▼	基礎・基本定着状況調査 調査対象は、小学校第5学年及び中学校第2学年の児童生徒。 策定時より大きく変化していない(令和2年度は新型コロナウイルス感染症のため調査未実施)。 「全く朝食を食べない」と回答した小学生は0.9%、中学生は1.8%である。	
中学生			95.1%	94.5%	94.0%(H31年度)	▼			
食育推進の担い手間の相互連携、官民連携の一層の充実	食育推進の担い手間の相互連携による食育推進 県や広島広域都市圏内市町との情報共有の促進	ひろしま食育ネットワーク参加団体の相互連携による食育推進の実施件数	90件以上	60件	—	未把握	—	ひろしま食育ネットワーク参加団体への食育活動調査 平成27年度以降、調査未実施。	

※ 実績値 ◎：目標達成 ▲：目標は達成していないが、第3次計画策定時(H27年度)又は中間評価時(H29年度)と現状値を比較して改善 ▼：第3次計画策定時(H27年度)と現状値を比較して悪化 —：評価不能